

2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月4日

上場会社名 日本ビジネスシステムズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5036 URL http://www.jbs.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 牧田 幸弘
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 勝田 耕平 TEL 03 (6778) 7336
 四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	82,312	—	2,679	—	2,804	—	1,805	—
2022年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年9月期第3四半期 2,005百万円 (—%) 2022年9月期第3四半期 ー百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	39.92	38.00
2022年9月期第3四半期	—	—

(注) 1. 2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年9月期第3四半期の対前年同四半期増減率並びに2022年9月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載していません。

2. 当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	55,856	20,704	37.1
2022年9月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 20,704百万円 2022年9月期 ー百万円

(注) 2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年9月期の数値は記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2023年9月期	—	20.00	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	10.00	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2022年9月期及び2023年9月期第2四半期末については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式分割を考慮しない場合の2023年9月期（予想）の1株当たり期末配当金は20.00円となり、1株当たり年間配当金は40.00円となります。

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	101,703	—	4,667	—	4,722	—	2,880	—	63.60

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規 1社（社名）株式会社ネクストスケープ、除外 1社（社名）－

（注）詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期3Q	48,366,400株	2022年9月期	48,366,400株
② 期末自己株式数	2023年9月期3Q	2,800,409株	2022年9月期	3,500,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期3Q	45,221,002株	2022年9月期3Q	39,259,000株

（注）当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2022年12月7日付で株式会社ネクストスケープの全株式を取得しました。これに伴い、2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、四半期決算補足説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年10月1日～2023年6月30日）における国内経済は、一部地域・業種で弱さがみられるものの、総じて経済活動の正常化に向けた動きが継続し、景気は緩やかな回復基調となっております。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、原材料・エネルギー価格の高止まりなど世界的なインフレや各国による政策金利引き上げに伴う景気後退懸念、急激な円安等の影響により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

国内IT市場においては、各企業のデジタル変革（DX）に対する投資意欲は引き続き底堅く、新型コロナウイルス感染症の拡大によるテレワークの急速な普及のみならず、生産性向上や業務効率化に加えて、デジタル技術を活用したビジネスプロセスおよびビジネスモデルの変革を伴う「働き方改革」等のニューノーマルへの対応ニーズが拡大し、システム投資需要が高まっております。企業のIT投資は当面堅調に推移するものと見込まれており、各企業においてクラウドシフトが加速する中、クラウドテクノロジー・サービスへのノウハウ獲得やITベンダーに依存したシステム設計・開発の見直しといったニーズが増加しています。

このような環境のもと、当社グループは市場拡大が続くパブリッククラウド市場において、マイクロソフト製品を中心に、価値のデザインから構築、利活用促進までを一気通貫で担えるソリューション提供力を強みに、大手エンタープライズとの直接取引によって事業拡大を実現してまいりました。当社の既存顧客においては、コミュニケーション基盤であるM365導入が進んできており、新たなID獲得によって、顧客基盤の強化を図っております。また、M365の導入が進んだ顧客企業においては、さらなるクラウド利活用推進のニーズが増加しており、今後はAzure活用を手掛ける案件へのシフトが徐々に拡大していくものと考えており、当社では顧客企業のクラウド利活用の促進を支援する体制強化のためのスキルシフトを先行的に進めております。加えて、2023年4月にChat GPTに関する新規ソリューションサービスの提供を開始して以来、顧客企業からは高い関心が寄せられ、徐々に導入が始まってきており、引き続き新たな需要に対して、迅速に対応してまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は82,312百万円、営業利益は2,679百万円、経常利益は2,804百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,805百万円となりました。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

(クラウドインテグレーション事業)

当第3四半期連結累計期間は、既存顧客からのM365導入案件の需要が一巡してきている一方で、引き続きクラウド需要は拡大しており、案件受注の増加につながっております。また、ネクストスケープ社の連結化に伴い、同社の業績が加わったこともあり、売上高は16,616百万円、セグメント利益は2,351百万円となりました。

(クラウドサービス事業)

当第3四半期連結累計期間は、大型アウトソース案件を含め継続案件を中心に、事業が順調に拡大し、売上高は11,437百万円、セグメント利益は1,568百万円となりました。

(ライセンス&プロダクツ事業)

当第3四半期連結累計期間は、顧客基盤強化のためのマイクロソフト社のライセンス販売において、製造業および公共向けのライセンスの一括受注を獲得したことで、売上高は54,268百万円、セグメント利益は1,321百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は34,666百万円となりました。その主な内訳は、受取手形、売掛金及び契約資産が23,137百万円、現金及び預金が5,247百万円であります。固定資産は21,190百万円となりました。その主な内訳は、有形固定資産が13,585百万円、投資その他の資産が5,251百万円であります。

この結果、総資産は55,856百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は27,314百万円となりました。その主な内訳は、買掛金が18,986百万円、1年内返済予定の長期借入金が1,238百万円であります。固定負債は7,837百万円となりました。その主な内訳は、長期借入金が6,944百万円であります。

この結果、負債合計は35,152百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は20,704百万円となりました。その主な内訳は、利益剰余金が11,544百万円、資本剰余金が8,647百万円であります。

この結果、自己資本比率は37.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年度9月期の業績予想につきましては、2023年5月8日に「2023年9月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。なお、業績予想は、現在入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	5,247
受取手形、売掛金及び契約資産	23,137
棚卸資産	2,785
その他	3,515
貸倒引当金	△18
流動資産合計	34,666
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	6,496
土地	5,618
その他（純額）	1,470
有形固定資産合計	13,585
無形固定資産	
のれん	1,892
その他	461
無形固定資産合計	2,353
投資その他の資産	
その他	5,271
貸倒引当金	△20
投資その他の資産合計	5,251
固定資産合計	21,190
資産合計	55,856
負債の部	
流動負債	
買掛金	18,986
1年内返済予定の長期借入金	1,238
未払法人税等	160
賞与引当金	854
受注損失引当金	131
その他	5,943
流動負債合計	27,314
固定負債	
長期借入金	6,944
役員退職慰労引当金	366
修繕引当金	152
その他	374
固定負債合計	7,837
負債合計	35,152
純資産の部	
株主資本	
資本金	539
資本剰余金	8,647
利益剰余金	11,544
自己株式	△299
株主資本合計	20,432
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	271
その他の包括利益累計額合計	271
新株予約権	0
純資産合計	20,704
負債純資産合計	55,856

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年6月30日)
売上高	82,312
売上原価	73,098
売上総利益	9,213
販売費及び一般管理費	6,534
営業利益	2,679
営業外収益	
持分法による投資利益	93
保険解約返戻金	64
貸倒引当金戻入額	42
その他	66
営業外収益合計	266
営業外費用	
支払利息	32
支払手数料	80
その他	28
営業外費用合計	142
経常利益	2,804
特別利益	
新株予約権戻入益	0
特別利益合計	0
特別損失	
固定資産除却損	22
特別損失合計	22
税金等調整前四半期純利益	2,782
法人税等合計	976
四半期純利益	1,805
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,805

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年6月30日)
四半期純利益	1,805
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	200
その他の包括利益合計	200
四半期包括利益	2,005
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	2,005
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、株式会社ネクストスケープの全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。なお、株式会社ネクストスケープは当社の特定子会社に該当しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	クラウド インテグレ ーション	クラウド サービス	ライセンス &プロダク ツ	計			
売上高							
外部顧客への売上高	16,608	11,425	54,268	82,302	10	—	82,312
セグメント間の内部売 上高又は振替高	7	12	—	20	—	△20	—
計	16,616	11,437	54,268	82,322	10	△20	82,312
セグメント利益	2,351	1,568	1,321	5,241	4	△2,566	2,679

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおりま
す。

2. セグメント利益の調整額△2,566百万円には、のれんの償却額△176百万円、各報告セグメントに配分していな
い全社費用△2,390百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費で
あります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、株式会社ネクストスケープの株式を取得し、連結の範囲に含めたこと
に伴い、当第3四半期連結累計期間において、のれんが1,892百万円増加しております。当該のれんの金額
は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額
であります。

なお当社は、資産については、事業セグメントに配分しておりません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。